

# お薬のしおり

## 味覚障害とくすりについて No.93 (H21.7)

東京医科大学病院 薬剤部

最近「食事をしても何となく味がしない」「家族から、作った料理の味が濃すぎると言われた」など味覚に対して何かおかしいなと感じたことはありませんか？

味覚障害は<sup>みかく</sup>けっして珍しい病気ではなく、<sup>はっしょう</sup>発症率は年間 14 万人とも言われています。50 歳代での発生が多く高齢になるに従い増加傾向にあるようです。男女比は 2 : 3 で女性の方が若干多いと言われています。

味覚障害の原因としては「<sup>あえん</sup>亜鉛の欠乏によるもの」、「病気によるもの」、「薬によるもの」、「放射線治療によるもの」、「手術によるもの」や「心因性のもの」から「原因不明のもの」まで、様々なものが考えられています。なかでも、薬が原因のものは、味覚障害全体の約 20% であり、最も多い原因のひとつとされています。

亜鉛の欠乏による味覚障害は、その大きな原因として食生活の変化に伴う<sup>かたよ</sup>偏った食事や不規則な<sup>せっしゅりょう</sup>食事習慣による亜鉛<sup>せつしゅりょう</sup>摂取量の低下によるとされています。また、最近の加工食品の<sup>てんか</sup>添加物には亜鉛の吸収を阻害したり、<sup>はいせつ</sup>排泄を促進したりするものがあり、これらも亜鉛の欠乏を起こす原因として指摘されています。

さて、亜鉛が欠乏するとどうして味覚が障害されるのでしょうか。舌の表面には、味を感じる器官として「<sup>みらい</sup>味蕾」というものが分布しています。この味蕾をつくる細胞には亜鉛が豊富に含まれており、その代謝には亜鉛が重要な働きをしていると考えられています。そのため、亜鉛が欠乏することにより、これらの細胞の代謝が遅れて、新しい味蕾が上手く形成されなくなるといわれています。そうすると味蕾の感度が低下し、結果とし



で味覚の低下につながると考えられています。

病気による味覚障害は、その原因として、舌の炎症、舌苔、唾液の分泌不足による口腔内の乾燥や味覚神経の障害などが挙げられています。

薬による味覚障害の原因としては、服用した薬が体内の亜鉛と結合し、その薬と結合した亜鉛が体の外に排出されてしまうために、結果として亜鉛の欠乏状態になると考えられています。それ以外にも、服用した薬が唾液中に分泌されることで、苦みなどを感じてしまうものもあります。

薬の副作用として「味覚障害」、「味覚異常」、「味覚低下」や「味覚減退」といった報告があるものには、血圧を下げる薬、リウマチの薬、消炎鎮痛薬、利尿薬、コレステロールを下げる薬や抗生物質など様々な種類の薬が含まれており、100種類以上あるといわれています。

薬による味覚障害と判断するためには、薬以外の原因が考えられるか、服用している薬の副作用として味覚障害が報告されているか、その薬を長期間服用しているか、味覚障害が起き始めた時期との関係があるかどうか、などを考慮する必要がありますといわれています。

味覚障害の原因として、現在服用している薬が疑わしい場合には、亜鉛製剤の投与と共に味覚障害の原因となる薬の服用中止や変更を行うことも必要です。発症6ヵ月以内の症例では亜鉛製剤投与の有効率は70%以上と比較的良好ですが、1年以上経過した症例では50%程度に低下すると言われていいます。おかしいなと感じたら、ご自分で判断して薬の服用量を変更したり、服用を中止したりせずに、薬を処方した医師や薬剤師に相談して下さい。

